

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
配当金受領 株主確定日	期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
定時株主総会 基準日	毎年6月中 毎年3月31日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店
単元株式数	1,000株 (平成19年2月1日付をもって、1,000株から100株に変更します)
公告方法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.tsumura.co.jp/zaimu/index.htm ただし、事故その他、やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

お問い合わせ先・郵便物送付先

〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL 0120-707-696
(平日9:00～17:00)

住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式の買取請求に必要な各用紙および株式の相続手続依頼書のご請求は、下記の電話またはホームページをご利用下さい。

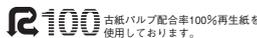
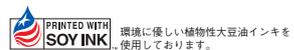
TEL 0120-86-4490 (自動音声対応・24時間)

ホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou>

なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引のある証券会社にご照会下さい。



〒102-8422 東京都千代田区二番町12番地7
TEL (03) 3221-5210 ホームページ <http://www.tsumura.co.jp/>



株主・投資家の皆様へ

第71期 中間報告書

平成18年4月1日～平成18年9月30日



経営理念 自然と健康を科学する

基本基調 伝統と革新

経営指針

1. 漢方医学と西洋医学の融合により
世界で類のない最高の医療提供に貢献する
 1. 重点化と集中化をすすめる強みを活かす
 1. 経営環境の変化に機敏に対応する
 1. 生命関連企業として漢方を通じ社会的責任を全うする
 1. 新しい企業文化を創造する

Contents

株主の皆様へ	2
決算レポート [連結]	3
決算レポート [単体]	5
トピックス	7
会社の概況	9
開発品目一覧	9
株式の状況	10
株主メモ	11

表紙の生薬は「菊花（キクカ）」

シマカンギク（キク科）
薬用の菊は中国安徽、河南、浙江省などに産する多年生の草本である。
頭状花を乾燥したものを薬用とする。
解熱、明目などの作用があるとされる。

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。ここに第71期中間報告書をお届けするにあたり、日頃のご支援に心から厚く御礼申し上げます。

当中間期におけるわが国の経済は、企業収益の改善に伴う設備投資の増加が続いたほか、雇用情勢の改善による好影響が個人消費にも波及し始めるなど、引き続き堅調に推移しました。

国内医薬品市場におきましては、4月に薬価基準の改定が実施されるなど、厳しい環境下で推移しました。

このような状況下、当社グループでは医療用医薬品の適正使用に関する情報の提供活動、並びに有効性・安全性に関する情報収集・伝達活動、医薬部外品の販売促進活動の展開に努めるとともに、業務の効率化に取り組んでまいりました。

医薬品事業におきましては、薬価基準引き下げによる影響と販売制度の変更等により、売上高は前年同期を若干下回る結果となりました。

医薬部外品を中心とする家庭用品事業におきましては、引き続き「顧客満足」を事業展開の基本におき、販売促進活動の展開に努めるとともに、業務の効率化に取り組んできた結果、前年同期を上回る売上高となりました。

当中間期の医薬品事業及び家庭用品事業を合わせた売上高は、前年同期比0.2%減の433億3千万円となりました。

利益面につきましては、営業利益は前年同期比8.2%減の67億8千4百万円、経常利益は前年同期比9.2%減の63億2千9百万円となりました。

特別損益につきましては、本年5月に本社ビル及び六番町ビルを売却し、売却益78億6百万円を特別利益に、減損損失4億2千2百万円を特別損失に計上しております。

中間純利益は前年同期比8.3%増の86億2千万円となりました。

当社は、「自然と健康を科学する」という経営理念のもと、日本の伝統に培われた「漢方」を科学的裏付けのもとに西洋医学と融合し、人々の健康と医療に貢献することを目指しております。

この目的実現のため、当社では「漢方医学の確立」、「生薬・漢方研究の充実」、「漢方の国際化」を経営方針として掲げております。

家庭用品事業につきましては、ここ数年の重要課題であった営業利益の黒字化を前期に達成しました。今後、継続的に当社グループの収益向上に寄与するためには、さらなる間接費の負担軽減を推進し、事業の継続と自立を目指す必要があります。しかしながら、当社の主力である医薬品事業とは、業態が大きく異なっており、現在の形態では限界があることから、この事業を分社することが最適であると判断し、平成18年10月から100%子会社（ツムラ ライフサイエンス株式会社）として、新たに活動を始めました。

今後、この事業の競争力を高めるため、環境変化に柔軟に対応できる効率の良い体制への転換が重要な課題となります。

当社グループは、今後も、「漢方・生薬」への特化と利益向上をテーマとし、漢方メーカーであることの独自性を最大限に活かし、医療及びトイレットリー分野で確固とした地位を築いていくことを目標としてまいります。

また、企業活動の前提となる社会的責任を果たすため、コンプライアンスの推進はもとより、患者様、お客様との満足と信頼を獲得するため、当社の新しい企業文化の創造に取り組んでおります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

若井 順一

決算レポート [連結] Financial Report [Consolidated]

◆連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期 平成18年9月30日現在	前中間期 平成17年9月30日現在	前期 平成18年3月31日現在	科目	当中間期 平成18年9月30日現在	前中間期 平成17年9月30日現在	前期 平成18年3月31日現在
(資産の部)	142,817	127,487	135,158	(負債の部)	78,263	79,178	79,482
流動資産	70,536	53,989	57,309	流動負債	55,448	51,911	53,194
現金及び預金	21,964	5,667	9,389	支払手形及び買掛金	3,593	6,977	3,765
受取手形及び売掛金	27,621	26,833	27,898	短期借入金	33,651	36,518	35,630
有価証券	-	20	-	未払法人税等	5,464	152	633
たな卸資産	17,351	15,775	16,468	返品調整引当金	74	99	93
繰延税金資産	1,405	3,288	1,003	その他の流動負債	12,664	8,163	13,072
その他の流動資産	2,205	2,465	2,610	固定負債	22,815	27,266	26,287
貸倒引当金	△ 12	△ 60	△ 60	長期借入金	8,282	15,022	11,830
固定資産	72,279	73,494	77,846	預り保証金	5,984	6,623	6,439
有形固定資産	41,822	48,855	48,497	繰延税金負債	4,613	1,977	3,988
建物及び構築物	45,788	53,624	53,070	再評価に係る繰延税金負債	1,803	1,522	1,803
機械装置及び運搬具	26,626	26,489	26,921	退職給付引当金	1,764	1,754	1,858
工具器具備品	7,973	9,295	8,745	役員退職慰労引当金	210	208	211
土地	11,046	15,788	15,635	その他の固定負債	155	157	155
建設仮勘定	4,468	3,105	2,796	(少数株主持分)	-	898	1,051
減価償却累計額	△ 54,081	△ 59,448	△ 58,671	(資本の部)	-	47,410	54,625
無形固定資産	1,356	1,354	1,410	資本金	-	19,487	19,487
投資その他の資産	29,100	23,285	27,939	資本剰余金	-	1,940	1,940
投資有価証券	26,246	20,216	24,707	利益剰余金	-	22,435	26,013
長期貸付金	52	173	159	土地再評価差額金	-	257	669
その他の投資等	3,018	3,165	3,324	その他有価証券評価差額金	-	4,281	7,125
貸倒引当金	△ 216	△ 270	△ 253	為替換算調整勘定	-	△ 772	△ 332
繰延資産	1	2	2	自己株式	-	△ 219	△ 278
資産合計	142,817	127,487	135,158	負債、少数株主持分及び資本合計	-	127,487	135,158
				(純資産の部)	64,554	-	-
				株主資本	55,053	-	-
				資本金	19,487	-	-
				資本剰余金	1,940	-	-
				利益剰余金	33,948	-	-
				自己株式	△ 323	-	-
				評価・換算差額等	8,445	-	-
				その他有価証券評価差額金	8,037	-	-
				繰延ヘッジ損益	186	-	-
				土地再評価差額金	670	-	-
				為替換算調整勘定	△ 448	-	-
				少数株主持分	1,054	-	-
				負債及び純資産合計	142,817	-	-

Point 解説

(資産の部) 流動資産 一前期末比 13,227百万円増加
 固定資産 一前期末比 5,567百万円減少
 本社・六番町ビルの売却により、現金及び預金が増加し、有形固定資産が減少しています。
 投資有価証券の増加要因は、主に株価上昇に伴う有価証券の評価益によるものです。

Point 解説

(負債の部) 流動負債 一前期末比 2,254百万円増加
 固定負債 一前期末比 3,472百万円減少
 固定資産の売却収入により計画を前倒して有利子負債を削減した結果、前期末に比べ、短期借入金が1,979百万円減少、長期借入金が3,548百万円減少しました。自己資本比率は44.5%です。

(純資産の部)

◆連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 自平成18年4月1日 至平成18年9月30日	前中間期 自平成17年4月1日 至平成17年9月30日	前期 自平成17年4月1日 至平成18年3月31日
売上高	43,303	43,378	90,419
売上原価	13,883	13,222	28,000
売上総利益	29,419	30,155	62,419
販売費及び一般管理費	22,635	22,766	45,951
営業利益	6,784	7,389	16,467
営業外収益	311	378	818
営業外費用	765	792	1,778
経常利益	6,329	6,974	15,507
特別利益	7,833	478	734
特別損失	661	328	1,515
税金等調整前中間(当期)純利益	13,501	7,124	14,726
法人税、住民税及び事業税	5,381	49	515
法人税等調整額	△ 520	△ 921	1,731
少数株主利益	20	34	99
中間(当期)純利益	8,620	7,961	12,380

Point 解説

売上高 薬価改定、販売制度の変更、商品構成の変化などにより前年同期比75百万円減少。主力である医療用漢方製剤は金額ベースで0.5%増加、数量ベースで6.7%増加しました。
営業利益 売上減少、労務費の増加などにより売上原価率は1.6ポイント上昇し、32.1%。人件費の増加があったものの、経営改善や販促費などの減少により、販費率は0.3ポイント改善の52.2%。その結果、営業利益は前年同期比8.2%減少しました。なお、家庭用品事業の営業利益は92百万円改善しています。
経常利益 支払利息の減少により営業外費用が減少しています。
中間純利益 過去最高益。本社・六番町ビルの土地、建物等売却による特別利益は78億6百万円です。

◆連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 自平成18年4月1日 至平成18年9月30日	前中間期 自平成17年4月1日 至平成17年9月30日	前期 自平成17年4月1日 至平成18年3月31日
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	5,505	6,529	14,593
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	13,191	△ 2,607	△ 2,448
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,115	△ 4,339	△ 8,964
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 15	49	127
V 現金及び現金同等物の増加額・減少額(△)	12,567	△ 368	3,308
VI 現金及び現金同等物期首残高	9,326	6,018	6,018
VII 現金及び現金同等物中間期末(期末)残高	21,893	5,650	9,326

Point 解説

投資活動によるキャッシュ・フロー
 本社・六番町ビルの建物、土地の売却収入138億円を計上しています。前期に受け取った前受金14億円とあわせ、売却収入は合計で152億円です。
フリーキャッシュ・フロー*
 前中間期3,922百万円に対し当中間期は18,696百万円となり、14,774百万円増加しました。

*フリーキャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローと投資キャッシュ・フローの合計値を用いています。

◆連結株主資本等変動計算書

当中間会計期間(自平成18年4月1日 至平成18年9月30日)

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等					少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
平成18年3月31日残高	19,487	1,940	26,013	△ 278	47,162	7,125	-	669	△ 332	7,462	1,051	55,676
中間連結会計期間中の変動額												
剰余金の配当*	-	-	△ 564	-	△ 564	-	-	-	-	-	-	△ 564
役員賞与*	-	-	△ 120	-	△ 120	-	-	-	-	-	-	△ 120
中間純利益	-	-	8,620	-	8,620	-	-	-	-	-	-	8,620
土地再評価差額金の取崩	-	-	△ 0	-	△ 0	-	-	-	-	-	-	△ 0
自己株式の取得	-	-	-	△ 44	△ 44	-	-	-	-	-	-	△ 44
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)	-	-	-	-	-	911	186	0	△ 115	983	3	986
中間連結会計期間中の変動額合計	-	-	7,935	△ 44	7,890	911	186	0	△ 115	983	3	8,877
平成18年9月30日残高	19,487	1,940	33,948	△ 323	55,053	8,037	186	670	△ 448	8,445	1,054	64,554

*平成18年6月29日の定時株主総会における利益処分項目であります。

決算レポート [単体] Financial Report [Non-Consolidated]

◆単体貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期 平成18年9月30日現在	前中間期 平成17年9月30日現在	前期 平成18年3月31日現在	科目	当中間期 平成18年9月30日現在	前中間期 平成17年9月30日現在	前期 平成18年3月31日現在
(資産の部)	139,170	124,248	131,308	(負債の部)	75,305	75,971	76,393
流動資産	69,553	53,113	56,272	流動負債	53,411	50,017	51,061
現金及び預金	21,182	4,376	8,230	支払手形及び買掛金	2,586	6,088	2,863
受取手形及び売掛金	27,129	26,464	27,572	短期借入金	32,675	35,605	34,657
有価証券	—	20	—	未払金及び未払費用	17,168	7,513	11,319
たな卸資産	16,421	15,473	15,742	返品調整引当金	74	99	93
繰延税金資産	1,382	3,095	991	その他の流動負債	907	711	2,128
その他の流動資産	3,446	3,739	3,792	固定負債	21,893	25,954	25,331
貸倒引当金	△ 8	△ 56	△ 56	長期借入金	7,531	13,920	11,056
固定資産	69,617	71,134	75,035	預り保証金	5,984	6,623	6,439
有形固定資産	35,156	40,881	41,683	繰延税金負債	4,612	1,976	3,985
建物及び構築物	15,661	19,225	19,155	再評価に係る繰延税金負債	1,803	1,522	1,803
機械装置及び運搬具	3,685	3,673	3,674	退職給付引当金	1,755	1,706	1,839
工具器具備品	906	1,019	1,034	役員退職慰労引当金	206	205	207
土地	10,433	14,483	15,022	(資本の部)	—	48,276	54,915
建設仮勘定	4,468	2,479	2,796	資本金	—	19,487	19,487
無形固定資産	460	462	479	資本剰余金	—	1,940	1,940
投資その他の資産	34,001	29,791	32,872	資本準備金	—	1,940	1,940
投資有価証券	26,226	20,196	24,687	利益剰余金	—	22,529	25,970
関係会社株式	601	1,796	596	利益準備金	—	196	238
長期貸付金	52	694	159	中間(当期)未処分利益	—	22,333	25,732
その他の投資等	7,336	7,374	7,681	土地再評価差額金	—	257	669
貸倒引当金	△ 216	△ 270	△ 253	土地再評価差額金	—	4,281	7,125
資産合計	139,170	124,248	131,308	自己株式	—	△ 219	△ 278
				負債及び資本合計	—	124,248	131,308
				(純資産の部)	63,865	—	—
				株主資本	54,971	—	—
				資本金	19,487	—	—
				資本剰余金	1,940	—	—
				利益剰余金	33,866	—	—
				自己株式	△ 323	—	—
				評価・換算差額等	8,893	—	—
				その他有価証券評価差額金	8,037	—	—
				繰延ヘッジ損益	186	—	—
				土地再評価差額金	670	—	—
				負債及び純資産合計	139,170	—	—

Point 解説

(資産の部) 流動資産 一前期末比 13,281百万円増加
 固定資産 一前期末比 5,418百万円減少
 流動資産及び固定資産の主な増減理由は連結と同様です。

Point 解説

(負債の部) 流動負債 一前期末比 2,350百万円増加
 固定負債 一前期末比 3,438百万円減少
 固定資産の売却収入により計画を前倒しして有利子負債を削減した結果、前期末に比べ、短期借入金が1,982百万円減少、長期借入金が3,525百万円減少しました。自己資本比率は45.9%です。

(純資産の部)

◆単体損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 自平成18年4月1日 至平成18年9月30日	前中間期 自平成17年4月1日 至平成17年9月30日	前期 自平成17年4月1日 至平成18年3月31日
売上高	41,532	41,384	86,125
売上原価	12,148	11,670	24,660
売上総利益	29,384	29,713	61,465
販売費及び一般管理費	22,652	22,717	45,982
営業利益	6,732	6,996	15,483
営業外収益	323	348	709
営業外費用	724	758	1,611
経常利益	6,332	6,586	14,582
特別利益	7,832	478	734
特別損失	725	324	1,509
税引前中間(当期)純利益	13,438	6,739	13,807
法人税、住民税及び事業税	5,369	39	487
法人税等調整額	△ 511	△ 790	1,698
中間(当期)純利益	8,580	7,490	11,621
前期繰越利益	—	15,642	15,642
合併引継利益	—	—	145
土地再評価差額金取崩額	—	799	1,211
中間配当額	—	—	423
中間配当に伴う利益準備金積立額	—	—	42
中間(当期)未処分利益	—	22,333	25,732

Point 解説

売上高
 医療用漢方製剤は、129処方中74処方が前年同期の売上を上回りましたが薬価改定などの影響により全体では0.5%の増加にとどまりました。主な商品の伸張率は、大建中湯3.9%増、六君子湯11.0%増、芍薬甘草湯8.0%増、補中益気湯1.5%減、紫苓湯8.7%減となっています。家庭用品事業の主な商品の伸張率は、バスクリン17.4%増、きき湯75.9%増となっています。ともに新アイテム追加などにより売上を伸ばしました。

営業利益
 売上原価率は前年同期に比べて1.0ポイント上昇し29.2%となりました。販管費率は0.3ポイント低下し、54.6%となりました。営業利益は前年同期に比べ3.8%減少しています。

経常利益
 支払利息の減少により営業外費用が減少しています。

中間純利益
 過去最高益。前年同期に比べ14.6%増加しています。

◆単体株主資本等変動計算書

当中間会計期間(自平成18年4月1日至平成18年9月30日)

(単位：百万円)

	株主資本					自己株式	株主資本合計	評価・換算差額等			純資産合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金		評価・換算差額等合計
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金	繰越利益剰余金							
平成18年3月31日残高	19,487	1,940	238	25,732	25,970	△ 278	47,120	7,125	—	669	7,794	54,915
中間会計期間中の変動額												
利益準備金積立*	—	—	69	△ 69	—	—	—	—	—	—	—	—
剰余金の配当*	—	—	—	△ 564	△ 564	—	△ 564	—	—	—	—	△ 564
役員賞与*	—	—	—	△ 120	△ 120	—	△ 120	—	—	—	—	△ 120
中間純利益	—	—	—	8,580	8,580	—	8,580	—	—	—	—	8,580
土地再評価差額金の取崩	—	—	—	△ 0	△ 0	—	△ 0	—	—	—	—	△ 0
自己株式の取得	—	—	—	—	—	△ 44	△ 44	—	—	—	—	△ 44
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	—	911	186	0	1,098	1,098
中間会計期間中の変動額合計	—	—	69	7,826	7,895	△ 44	7,851	911	186	0	1,098	8,950
平成18年9月30日残高	19,487	1,940	308	33,558	33,866	△ 323	54,971	8,037	186	670	8,893	63,865

※平成18年6月29日の定時株主総会における利益処分項目であります。

米国の学会にて漢方の演題が発表

本年5月、アメリカ・ロサンゼルスにて開催の米国DDW（消化器病週間）2006にて、ツムラ漢方製剤の研究演題が取り上げられました。

なお、DDWは、米国消化器病学会・米国消化器内視鏡学会・消化器外科学会・米国肝臓病学会の4学会が共同で開催し、毎年世界各国より医療関係者や研究者など1万5000名近くが集まる世界最大級の学会です。

今回のDDWでは、ペプチドホルモンであるグレリンの分泌促進を介した「六君子湯」の食欲亢進作用や「大建中湯」の大腸腸管血流における血流増加作用、「茵陳蒿湯」投与による早期の肝機能改善など、消化器領域における漢方薬関連の演題が6題発表されました。日本国内だけでなく海外でも、漢方薬に対する期待が高まっていると思われます。

《研究発表内容》

- | | |
|---------|--|
| ツムラ六君子湯 | ■グレリン分泌促進を介した六君子湯の食欲亢進作用
■NERD（非びらん性胃食道逆流症）に対する新たな治療法 —六君子湯の効果—
■うつ病患者のSSRI（抗うつ薬の1種）投与による急性胃腸障害に対する六君子湯の効果 |
| ツムラ大建中湯 | ■大建中湯の大腸腸管血流における血流増加作用に関する研究
■モルヒネ誘発消化管運動障害に対する大建中湯の改善作用 |
| ツムラ茵陳蒿湯 | ■大量肝切除ラットの肝機能および肝再生に対する茵陳蒿湯の改善作用 |

ツムラ ライフサイエンス株式会社 家庭用品事業 新たなスタート

本年10月1日に、家庭用品事業を分社化（会社分割）しました。家庭用品事業は、本年6月22日に設立された「ツムラ ライフサイエンス株式会社」（ツムラ100%出資）が承継し、ツムラグループの一翼を担います。

「ツムラ ライフサイエンス株式会社」は、76年の歴史を刻む「バスクリン」の他、「きき湯」「ソフレ」などの入浴剤をはじめとして、育毛剤、洗浄剤など、天然素材を活かした家庭用品の開発・製造・販売を一貫して行う製造販売会社としてスタートしました。

同社は、ツムラグループの一員として、スリムな組織でお客様のニーズに素早く柔軟に対応できる体制を整え、さらなる発展を目指します。

●ツムラ ライフサイエンス株式会社では、新たにホームページを開設しています。

<http://www.tsumura-ls.co.jp/>



本社ビル及び六番町ビルの売却

資本効率の改善とさらなる収益率の向上を図るため、本年3月に本社ビル及び六番町ビルの売却を決定し、本年5月末に物件の引き渡しを完了しました。なお、1年間の賃貸借契約を締結し、引き続き両ビルを本社として使用しておりますが、平成19年5月から東京都港区の賃貸物件に本社機能を移転する予定です。

単元株式数の変更

平成19年2月1日付をもって、単元株式数を1,000株から100株に変更します。

当社株式の流動性を高め、より多くの投資家に対して投資機会の拡大を図るため、変更することを決定しました。



菊池桃子さんが医療における漢方の特長を院内の現場から伝えています！ 企業広告「漢方にはニュースがある」

昨年、当社では一般の方々を対象に「漢方薬」に対する認知や理解の調査（※）をおこなったところ、医療用漢方薬の存在を認知はしているものの、実際の診療においてどのように活用されているか正しく理解している人は意外に少ないという結果でした。
※20～69歳の男女個人500名を対象に実施

その結果を踏まえて、一般の方に伝えたい医療用漢方の特長を次の4点に整理しました。

- 「漢方はお医者さんと二人三脚で向き合える医療です」
- 「西洋医学との融合でよりよい治療へ」
- 「医療用漢方薬は思った以上に経済的」
- 「健康保険が使えます」

今回の広告は、これらの文章を病院の壁に描くという空間の演出で注目度を上げる工夫をしています。そして菊池桃子さんの真剣な表情には、ツムラのメッセージを広く理解してほしいという気持ちが込められています。

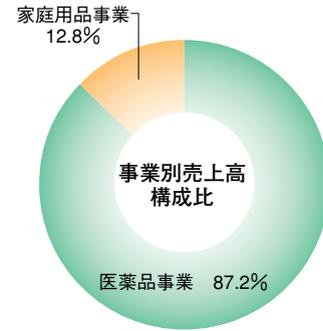
今年もテレビ・新聞や漢方セミナーなどを通じて、正しい漢方をより理解してもらえるように、幅広い宣伝活動を行っていきます。

会社の概況 (平成18年9月30日現在)

●会社概要

本社 東京都千代田区二番町12番地7
 創業 明治26年4月10日
 設立 昭和11年4月25日
 資本金 194.87億円
 従業員数 2,378名 (出向者23名含む)
 事業内容 下記製品の製造、販売ならびに輸出入

事業区分	製品分類	主要製品名
医薬品事業	医療用医薬品	医療用漢方製剤129品目、抗真菌剤アスタット、ウィルソン病治療薬メタライト250カプセル、低用量経口避妊剤シンフェースT28他
	一般用医薬品	中苧湯・ラムール等の婦人薬、一般用漢方製剤他
	その他の医薬品等	理化学機器、特殊肥料他
家庭用品事業	医薬部外品	入浴剤 (バスクリン・ピュアスキン・ナチュラルリラックス・クールバスクリン・ソフレ・日本の名湯シリーズ・ぎぎ湯他)、育毛剤 (モウガ他) 他
	雑貨品	浴室洗浄剤ハスピカ他
	化粧品	ボディソープ (なごみ) 他
	その他の家庭用品等	キッチンアクアショット他



●取締役及び監査役

取締役会長 風間 八左衛門	取締役 市尾 義昌	取締役 鈴木 正
代表取締役社長 芳井 順一	取締役 大原 剛	常務取締役 横田 孝久
専務取締役 桑原 耕三	取締役 上田 賢示	監査役 村山 努
常務取締役 島田 正喜	取締役 久島 正史	監査役 大西 昭一郎
常務取締役 森 善樹	取締役 荒井 聡	監査役 西川 清敏

●連結子会社

国内	ツムラ ライフサイエンス株式会社 株式会社ロジテムツムラ 株式会社クリエイティブサービス	海外	深圳津村薬業有限公司 上海津村製薬有限公司 津村 (上海) 貿易有限公司	TSUMURA USA, INC. PACIFIC MARKETING ALLIANCE, INC.
-----------	--	-----------	--	---

開発品目一覧

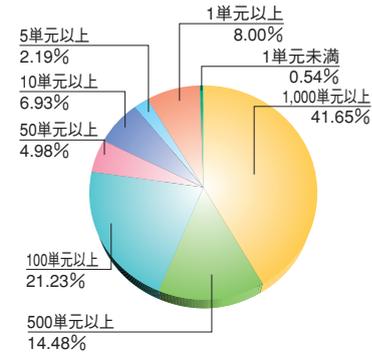
【海外】	開発ステージ	一般名	剤型または経路	適応予定	自社・導入先
	Phase-II	keishibukuryogan	錠 剤	更年期に伴うホットフラッシュ	自社
	Phase-II	daikenchuto	顆 粒 剤	手術直後のイレウス	自社

Phase-IIは、医薬品の開発段階を表します。今後Phase-IIIを経てFDAに申請し、審査をパスすると新薬承認が与えられます。

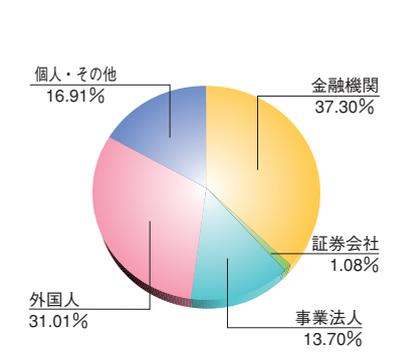
株式の状況 (平成18年9月30日現在)

●発行可能株式総数 250,000,000株
 ●発行済株式の総数 70,771,662株
 ●株主数 5,788名

■所有株式数別分布状況



■所有者別分布状況



●大株主

株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口	7,672	10.84
エイチエスピーファンドサービスズパークスアセットマネジメントコーポレイテッド	4,314	6.10
エイチエスピーファンドサービスズパークスアセットマネジメントリミテッドユーエスクライアント	3,671	5.19
日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口	3,336	4.71
株式会社三菱東京UFJ銀行	2,697	3.81
指定単受託者三井アセット信託銀行株式会社1口	2,209	3.12
ツムラ従業員持株会	1,901	2.69
第一製薬株式会社	1,525	2.15
大日本住友製薬株式会社	1,092	1.54
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー-505019	1,062	1.50

●株価推移 (平成18年4月~平成18年9月)

